

の如き學術社會にも有力な人であると共に、私的には又圓滿温厚の人格者であつた藤崎君を喪つたのは友人の一人として實に遺憾に堪へないが、其の一生涯を貴重に終られたといふ事は、せめてもの慰藉である。

圖南 鵬翼 の 大志

會
前ブラザル公使員

堀 口 九 萬 一

私は故人を頗る古くから知つてゐる者の一人である、故人藤崎君は日本人の誰もがまだ手を著けなかつた時に、自ら率先して南米貿易の道を開き、今日の盛大を致した人である。日露戦争の數年前に私は五年半ばかりもブラジルに居て、米國人乃至英佛獨の人達が盛に商賣をやつてゐるばかりでなく、日本の商品が専らそれ等の商人の手によつて賣捌かれてゐるのを見て遺憾に堪へなかつた。それで明治三十九年の四五月頃に歸朝した時、東京の銀行集會所でブラジル全体の話をした、すると其の時に藤崎君が來てゐて、話の終つた後私に面會を求め、私はブラジルで何かやりたいと思ふと云ふ事で、翌日改めて商

況並に經濟財政事情等を私から聴取り、そして創めたのが今日南米諸國に名を轟かしてゐる藤崎商店の濫觴である、今日南米に於ける邦商の發展はすばらしいもので、サンパウロだけにでも十數軒の日本人商店があり、各々頗る發展してゐるが、其の基は、二十年前に歐洲諸國を巡察して來て、南米諸國に對する日本商人等の態度を憤慨した藤崎君が、先づ自ら進んで範を示したことにある、二十年前は唯一人もゐなかつた日本人が今や五萬人以上を算へ、曾て裸一貫で入り込んだ者が現在では十萬町歩の所有地を持つに至つたのは、これ皆陰に陽に藤崎君の力を盡された結果であつて、曾ては海外に出ることを忌嫌ひ殊に南米と云へば草昧野蠻の曠原のやうに考へて恐れてゐた日本人が、これ程までの地点を萬里の異境に占め得た理由は、藤崎君が率先事に當つて大なるショックを與へたが爲であるといふより外に言葉がないのである。

以上私は君の合的方面について述べたが、私人としての藤崎君は人に接して温讓謙遜、家庭にあつては春風の源であつて、殊に其の長上に對して到れり盡せる孝行は現代容易に見得ない所である。そして又一方に於ては趣味の人で、少閑がある時には書を習ひ洋画を賞し、往々自ら画筆をさへも採つた、音曲は廣く愛したが、殊に謠曲と木遣節とに長じてゐた、これに就て面白い話がある、曾て君がブラジルへ遊びに來た時、居留民大會が公使館のベランダで開かれて、多數の日本人が集まつた席で隠し藝の披

露が始まつた。其の時に君は、此の邊は非常に静な所であるが、大聲を出してもよいかと聞いたので、私が、此の地域内は治外法權であるから構はぬと答へると、君は欣んで多年修練の木遣節を歌つて聞かせた、音吐朗々其の聲といひ節廻しといひ流石に旨いもので、當日の會に臨んだ人達は、廣褒一萬二千哩以上の地域に分布してゐる在留日本人全体が、今日はお蔭で東京の中央にゐるやうな氣がしたと云つて大に喝采し、中には入門の申込までした者さへあつた、兎に角君は確に趣味教養の廣い人であり、同時に又人格の高尙な人であつた。今以て私達は、君を知つてゐる人に出くはすと、其事を話し合つては追慕の思を深くするのである。

商利を超越せる眞商

本會理事

宮 川 仁 藏

故人藤崎三郎助君の事については今迄に諸家の有力なお話があつたから、これ以上に言ふ餘地はない只私の立場として本會と藤崎君との關係について一言したい、私が初めて君を知つたのは明治四十五年